

やまがた 議会だより

平成27年1月

No.111

発行 〒390-1301 長野県山形村議会（代表 平沢恒雄）
編集 議会広報編集特別委員会 TEL0263-98-3111 FAX0263-98-3078



子どもひろばでの餅つき

■第4回定例議会	2	■一般質問	4~7
■主な議案	2	■キャッチボール	8
■委員会活動報告	3	■議会目録	8

平成26年 第4回議会定例会

スカイランドきよみず 株トヨタエスタプライズを指定

平成26年第4回議会定例会は、12月10日から19日までの10日間の会期で開催された。

主な議案は、清水高原交流施設の指定管理者の指定及び、鳥獣被害対策実施隊への費用弁償をはじめ、条例改正7件、制定1件、補正予算3件、陳情3件などが、委員会審議をへて原案どおり可決された。戦没者御遺骨帰還は継続審査となった。

一般質問には、11人が立ち、村政全般について質問した。

補正予算

〔一般会計〕

歳入歳出予算総額にそれぞれ千6百86万円を追加し、総額を33億7千9百89万円とした。主なものとして、役場庁舎整備事業工事へ百1万7千円、鳥獣被害対策百20万1千円、住宅リフォーム事業へ2百万円などを計上した。

〔介護保険特別会計〕

歳入歳出予算の総額に4千百73万6千円を追加し、それぞれ6億9千2百85万8千円とした。

条例改正

◆山形村消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について
(全会一致で賛成)

◆特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
(全会一致で賛成)

〔国民健康保険 特別会計〕

総務費3万2千円、保健事業費97万1千円を追加し、予備費百万3千円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ11億7千3百89万2千円とした。

◆山形村国民健康保険条例の一部を改正する条例について
(全会一致で賛成)

◆山形村老人医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例について
(全会一致で賛成)

◆山形村重度心身障害者医療給付金条例の一部を改正する条例について
(全会一致で賛成)

◆山形村母子家庭等医療給付金条例の一部を改正する条例について
(全会一致で賛成)

◆山形村子ども医療給付金条例の一部を改正する条例について
(全会一致で賛成)

条例制定

◆山形村下水道事業の設置等に関する条例の制定について
(全会一致で賛成)

管理者の指定

◆清水高原交流宿泊施設の指定管理者の指定について
(全会一致で賛成)

◆山形村屋内運動場の指定管理者の指定について
(全会一致で賛成)

◆山形村清水高原テニスコートの指定管理者の指定について
(全会一致で賛成)

◆山形村清水高原ゴルフ練習場の指定管理者の指定について
(全会一致で賛成)

◆山形村清水高原山村広場施設の指定管理者の指定について
(全会一致で賛成)

陳情

◆手話言語法制定を求める意見書の提出を求める陳情書
(全会一致で採択)

◆安全・安心の医療・介護の実現と夜勤改善・大幅増員を求める陳情書
(反対2賛成9 採択)

◆介護従事者の処遇改善を求める陳情書
(反対1賛成10 採択)

「特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例」の討論

反対討論

上条 浩堂 三澤 一男

鳥獣被害対策実施隊員の報酬に関する費用が日額3千円として提出され、総務産業常任委員会においては採択とされたが、反対の立場から討論する。この条例の基本的な事に反対するわけではないが、村からの説明では、近隣構成市村の松塩筑胤会友会で足並みをそろえて決定したということだが、条例で定めている他の委員に対する報酬は通常日額6千6百円、半日では3千3百円となっている。今回設置された鳥獣被害実施隊員の、何時出動するか判らない危険な任務に携わる事を考えれば、村における他の委員との報酬額の整合性を考え調整する事が必要と考える。たしかに、狩猟税の減免、公務災害の保障等はあると思うが、報酬を増額改定する事を求め本条例改正には反対する。

賛成の立場から

大月 民夫 大池 俊子

今年は特に熊の出没が多く、あの御嶽山の噴火の日山形村で2人の女性の方が熊に襲われた。近年胤会会会員は高齢になり会への新たな入り手も無い。そんななか松塩安筑胤会友会で「鳥獣被害対策実施隊」がつくられた。この隊員になると狩猟税が半額免除になり技能講習も免除になる。日額3千円というものは決して高くはないが、費用弁償で支払われるのは大きな前進である。そして「鳥獣被害対策隊」が広域で作られたこともである。

議論の焦点

広域で足並み揃え3千円であり、村もそれに合わせた方がよい。金額については今後広域で検討すればよい(技能講習の個人負担分も村で補助すればよいと感じた)。

福祉文教常任委員会 行政視察

10月29日(水)

岐阜市立「岐阜小学校」

コミュニティ・スクールの先進的取り組みの実態調査。



「あゆの学習」教室の様子

10月30日(木)

富山市社会福祉法人 わかくさ保育園

私立ながら病中病後時保育を実施している実態調査。



病児保育の様子



富山市社会福祉法人 「このゆびとーまれ」

富山型デイサービスを展開しているその実態調査。



惣万理事長を囲んでミーティング

視察の感想

○岐阜小学校

「あゆの学習」の授業を視察。数人のサポーターもクラスに自然体で入っていた。

○わかくさ保育園

特に病児保育の取り組み、小児科医が毎日診察に来られる姿には頭が下がる思いであった。

○「このゆびとーまれ」宅幼老所

利用者か職員かわからないくらい「和」を感じた。病児保育も、放課後デイも行なわれていた。長野県であまり成功しなかった宅幼老所がここではうまく運営されていた。

総務産業常任委員会 行政視察

11月18日(火)

阿南町役場

ふるさと納税について

「ふるさと納税」へ1万円以上の寄付をする
と、阿南産の米を20kg、3万円以上の寄付で60kg発送している。
昨年は1億8千万円、本年度は2億3千万円とも聞いている。



11月19日(水)

山梨県 忍野村

防災無線について

今回、忍野村防災無線局の設置現場を視察した。親局を役場に置き、平山峠に中継局を、小局を村内6ヶ所に設置。また移動系防災無線も設置している。そして各戸へ受信機(2千3百55台)を無償貸与している。



視察の感想

○阿南町

「ふるさと納税」に「米」。人口減少、高齢化問題ほか、様々な課題を多くの自治体がかかえている。阿南町の施策は参考になる事例であった。

○忍野村

「防災無線」被害を想定した万全な備え。村民全体の危機感が、防災無線の導入につながっている。今後の山形村の防災対策・体制づくりにも多分に参考になる事例であった。

松塩地区広域施設組合 行政視察

(松本クリーンセンター施設に参加している
松本市・塩尻市・山形村・朝日村)

11月26日(水)

ハリタ金属(株)富山支店

小型家電リサイクル事業展開の実態調査

11月27日(木)

金沢市・戸室リサイクルプラザ

ゴミ焼却施設であるが、一方で大型家具・自転車等のリサイクル事業も展開している実態調査
山形村議会
(平沢議長・福祉文教委員長)

そこが聞きたい

一般質問

12月議会定例会は11日に一般質問が行なわれ、村政全般に亘って11人が質問した。

鳥獣被害対策について

村長 防止柵は対策協議会等で検討していきたい



籠田利男 議員

Q 今年には村内でも熊捕殺数が11頭、2名の方が大きな怪我をされている。

A 山形村が定める鳥獣被害防止計画とは。

A 村長 鳥獣被害防止特別措置法に基づき、山形村鳥獣被害防止計画として3年毎に策定しており、現在の計画は26年度～28年度の計画期間である。

Q 各市町村の有害獣侵入防止柵について。

て。

A 村長 清水高原等のあり方を考慮し、鳥獣被害対策協議会等で調査、住民の意見や協力を得ながら検討していきたい。

Q 森林生態系の保全について。

A 村長 森林が持つ多面的な機能が持続的に発揮されるよう、県や森林組合などの関係機関と連携のもと、適正な森林管理、整備を推進したいと思う。

その他にリフレッシュ補助金について質問した。

正規調理員の採用は

教育長 公務内で活用できる環境整備が必要



大池俊子 議員

Q 学校給食法制定から60年がたつ。政府の「構造改革」路線は、財政難などを口実に調理員のパート化、民間委託、センター方式化をされてきている。そんな中、山形村は、「自園」

「自校」給食を守り続けている。特に小学校は「学校給食に地場産物を活用した献立コンクール」で今年は優秀賞に選ばれて、3年連続入賞は山形小学校だけという。一方で、山形小学校も数年で正規の調理員が定年退職となるため、正規調理員を採用すべきだが。

A 教育長 現在、小学校の正規の給食調理員は2名で平成27年度

災害時の高齢者安否確認対策は

村長 隣近所が助け合う地域に



赤羽千秋 議員

Q 民生委員だけで、安否確認が対応できているのか。

A 村長 主任児童委員、民生児童委員合わせて19名の委員が、県北部のような震度6弱を記録した災害が発生した場合は、民生児童委員だけでは困難なため、連絡班・隣組など隣近所の助け合いが必要と感じてい

A 村長 ①要介護認定3、4、5の方。

Q 避難行動要支援者の対象基準は。

等、および村長が必要があると認めた方。

Q 障がい者や言葉の通じない外国人への対応は。

A 村長 災害時のみでなく日常生活がどうであるか、実態を把握したうえで検討する必要があると考えている。

Q 助けを必要とする避難行動要支援者の対象基準は。

等、および村長が必要があると認めた方。

Q 形村の農業を「学び」にどう生かしているか。

A 教育長 山形村産の農産物を農家から直接購入し、地場産物を生かす献立や、交流給食「給食ノート」の中で山



給食楽しいな

末1名、28年度末に1名が定年退職される。平成25年度以降、公的年金の報酬比例部分の支給年齢が65歳に引き上げられたことから村としても、これまで職員が培ってきた多様な専門的知識や経験を公務内で活用できる環境を整備することが必要。

形村産の食材紹介コーナーを設けたり、総合的な学習の時間の中で、稲作体験や長芋の収穫見学等を行なう等、「学び」に活かしている。

除雪計画の見直しを

村長 除雪業者を1社増やし対応する



竹野 恒夫 議員

Q 平成26年2月8日、14、15日の大雪で、幹線道路や生活道路の除雪が間に合わず交通が混乱し、村には苦情や要望が寄せられた。これを受けて村では除雪計画の見直しが要求されるが、村

の除雪計画の見直しは。

1、幹線道路・生活道路の除雪見直しは。

2、ボランティア組織の立ち上げは。

3、雪捨て場の確保は。

4、県との連携は。

A 村長 1、本年度は、除雪業者を1社増やして対応する。業者間の除雪区域の見直しをする。その中で、優先順位に係る道路も検討した。作業にあたっては、

さきに除雪計画路線、全部の除雪を実施するため、優先順位については、大きな変更はしていない。新規の除雪路線については、11月末に区長・土木委員合同委員会を開催し、新たに5路線ほど要望を受けた。

2、ボランティア組織の立ち上げは、考えていない。

3、雪捨て場は、各区に1箇所設置している。雪の積雪状況を見ながら昨年同様に5箇所の雪捨て場の増設を計画している。

4、県との連携について

育て支援センター「すくすく」運営により村内外に好評である。

健康福祉については、集団検診の受診率が低いことが課題。区長や健康づくり推進委員の方々と相談して受診率の向上に努める。

産業分野については、雪害・降霜・熊出没等で苦勞した。東原・大池原地区の農道・排水対策や風食に取り組む。

災害対策については、住民の安否確認が大切で、区と協力し安否確認表の作成を検討する。

人口減対策については、住宅分譲計画が16区出ている。松本第2臨空工業団地の従業員住宅を誘致したい。JAや農業委員会、農業従事者と共に農業後継者の育成をはかり、婚活・出産に結びつきたい。

野生鳥獣対策は

村長 野生鳥獣被害対策を検討、研究していく



三澤 一男 議員

Q 安心安全な村づくりをしている村で、あつてはならない熊による人的被害が発生したが、村はどのような対策を取ったか聞きたい。

A 村長 朝夕の巡回車の警戒音によるパトロール、檻の設置と巡回を猟友会に依頼、クマ出沒警戒対応のチラシ全戸配布、告知放送、有線文字放送による注意喚起、小学校児童に全員に熊よけの鈴を貸与、集落地への出沒対応マニュアル作成等を行なった。

Q 鳥獣被害対策実施隊を設置したが、内容を聞きたい。

A 村長 近隣市村と連携しながら、鳥獣による農林被害の防止・

軽減をするため、特別措置法に基づき設置した。隊員は松塩筑猟友会山形支部の会員を非常勤の特別職として、任命し、村職員も隊員に指名した。

Q 近隣市村では防護柵の設置をしているが村は。

A 村長 侵入防止柵については鳥獣被害対策協議会や、住民の意見や協力を得ながら検討したい。また、緩衝帯整備は効果があると思われるので、進めていく。

その他に、2月の豪雪を受けて村の対策を質問した。



隣村が設置した防護柵

村長の政治姿勢を問う

村長 今後は公共投資も視野に入れ事業を検討する



上条 浩堂 議員

課題は。

A 村長 今の実質公債費比率は6・2%だが8・0%位が良いと思うため、公共投資も視野に入れ事業を検討していく。

子育てに関しては、子

Q まもなく就任2年経過するが、成果と

松くい虫対策の予算化の考えは

村長 27年度予算編成に向け検討する



議員志武澤增

Q 松くい虫が、波田地区で発生した。近隣では松本市、安曇野市、東筑摩郡北部で拡大し対応に苦慮している。

松が枯れると土砂災害の危険が増す。危機管理について村長の考えは。

A 村長 安曇野市長
や生坂、麻績村長か
らも苦労話を聞く。四賀
の現場も見た。しっかり
対応する。

か。

Q 松くい虫対策について村の方針はある

A 村長 松くい虫被害対策実施計画を作成する予定である。

Q 予防には、薬剤の空中散布が効果あるか。実施する考えはあるか。

A 村長 実施に当たっては、松の所有者や住民と意見交換したい。

Q 寺社や個人が所有する松に、あらかじめ薬剤を樹幹注入する事業に対し、村で補助する考えはあるか。

A 村長 樹幹注入に
要する経費と補助金
については、27年度予算
編成に向け、検討した
い。

Q 白馬村の地震では
住民の連帯意識によ
り、死者ゼロであつたこ
とは学ばなくてはならな
い。

避難所の運営を円滑に行なうための対策は。

A 村長 防災訓練で
避難所の模擬体験を
するメニューを取り入れ
たい。

「告知放送」同報無線化に向けて

早期導入を目指し新年度着手



大月民夫議員

平成26年度は豪雪・雹害・火山噴火・地震と、自然界の猛威に打ちのめされた年であった。

災害時における情報通信体制の充実を図る「告

知放送の同報無線化」への
の事業展開を急げない
か。

A 村長 現状の有線による告知放送は、

公共交通網改善の協議は

重点政策として位置付け



新居禎三議員

Q バス網改善の計画の調査策定の為の協議機関を設置する考えはあるか。

A 村長 現在松本市
の西部地域分科会に

Q 高校生に対して助成等でバス網を活性

Q 計画している無線システムの内容は。

A 村長 告知放送基
地局の開局と、外部

Q 事業計画の基本方針は。

A 村長 村としては「緊急防災減災事業」の活用を予定している。

A 村長 今までの放
送内容が多岐にわた

● ● ● ● ● ● ● ● ● ●
化する考えは。

A 村長 利用促進を図るには運賃助成が

を検討し、28年度からの実施に向けて必要な対応

や実施に当たって、
専門知識を有する人材の

A については現体制からすると専門化より、委

っている、関係者、関係機関と協議をしながら整理、精査が必要。

「Jアラート」情報の自動放送システムは導入を予定。

Q 防災業務に経験豊かな人材発掘を行ない、アドバイザー的な人員配置の考えは。

A 村長 専門知識や
消防防災の現場経験
のある職員採用は必要
なことと思う。今後の検

設備についての質問をした。



村の福祉バス

若者がUターンしやすい山形村の環境とは

村長 生活環境の整備を図っていく



西牧一敏 議員

Q 若者に対して、どのような明るく元気な村づくりを考えているのか。

A 村長 0歳から成人までは保育、児童教育、学校教育、として保護者と児童に行政は支援を行なうが、20歳から65歳定年までは社会人として行政に支援をしてもらった恩返しをする期間と考える。定年後は、老人福祉行政として行政は支援をしていく。山形村

風食防止対策の進展は

村長 麦類種子の購入費は、村で全額を助成している



小林武司 議員

Q 風食防止に広域や村での前進的な対策はあるか。

A 村長 研究模索はされているが、風食

を止める決定的な手段には至らず、頭を痛めている。麦類の作付け、網マルチの被覆等を組み合わせた方法で耕作者の皆さんに実施・協力をいただくことに重点を置くべきと考えている。長期的には地域全体で風食を抑えるグリーンベ

は、近隣には工業団地も整っており、比較的Uターンしやすい村だと考える。

Q 山形村の若者が多数県外に住んでいるが、Uターンの受け入れの施策はあるのか。

A 村長 山形村だけでは就労の場の確保は限りがあるため、近隣市町村との連携をとって情報提供をしていきたいと考えている。

Q 公用車のEV自動車対応は考えていないか。

ルトを設ける等の抜本的な取り組みも構築していきたいと思っている。

Q 麦類の播種量と面積換算は、どの程度か。

A 村長 JAハイランドの取りまとめによる昨年の麦類播種実績は、合計6千4百7kg、面積換算で、およそ58haとなっている。

種子の購入費は、村で全額補助しているので対策実施圃場の拡大に理解と協力を願っている。

いのか。

A 村長 近隣では環境担当部署でEV車を導入し、環境問題の普及啓発に活用している自治体もあるので、導入については公用車の更新するタイミングを見計らって検討したいと考える。

その他に、温室効果ガスの村の考えと、小学校・保育園一带の車輛制限速度の見直しについて質問した。

この他に、太陽光発電の農地転用について質問した。



風食の様子

旬の味

昨年は2月の大雪を始め降雪・火山噴火など自然の驚異をまざまざと見せつけられた。人間の活動による地球温暖化で異常気象のなせる技なのか。

政治の世界では、人々が慌ただしく動く年末になつての総選挙という、政権与党による計算しつくされた策略が功を奏してか、与党の圧勝に終わり、一強多弱の国政がしばらくは続くようだ。アベノミクスの効果は、強者がより強くなるばかりで、中小や地方に効果が波及してくるのはいつになるのか、じっと耐えながら我慢するしかないのか。地方創生の掛け声をできるだけ早く実行に移し、格差拡大を食い止めねば。

何事においても「ほどほど」が心地よく、格差は何かしら「むずむず」していけない。格差の拡大は「百害あって一利無し」ではないか。二〇一五年は、みんなが安心して暮らせる「ほんまの」の世の中になればと思う。

新居 禎三



開村百40周年を むかえて

旗町貞子

(下大池)

昨年は開村百40年。記念事業の企画などで節目の年でした。

手元にある「郷土」や「黒川堰」の村誌をひもといてみると、明治7年(1874年)に山形村が誕生し、現在に至ります。

「やまがた」という呼称は「山方(やまかた)三村」に由来し、大池村・小坂村・竹田村が合併して「山形村」が誕生したと記してあります。百40年の歳月は村の、日本の、世界の歴史を垣間見ることができます。多くの人達の苦難克服の足跡に、

ただ頭の下がる思いです。6回目の年女となる私は、開村百40年の後半を過ごしたことになります。その中でいちばん心に残ることは、中信平総合開発です。子供の頃は田ん

ぼの水配で大人達がもめていたり、畑の日照りなど水不足に苦しむ農業でした。昭和46年、中信平総合開発の快挙により、豊かな水量が田畑を潤しています。水の心配がない農業になり、作付も多様化し、収益も増えました。これらは、先輩の皆様の実見と決断に感謝です。

山形村に生まれ育ち結婚し、山形村の変遷と共に歩んできた私は、緑豊かで元気な山形村が大変好きです。誰もが貧しかった幼少の頃を想うと、現在は経済的にも豊かになり、生活も便利になりました。

活気に溢れ、他市町村の注目を集めている今の山形村がこれからどう進むか、村を担っている議員さんを始め、役職員の方々にはどうか未来の山形村のビジョンを見据えた中での

私達も高齢になり、耕作放棄は目前です。これから増えていく耕作放棄地は、地方創生の方式を活用するなど、提案に対する肉付けを追求し、将来像を描き具体化していくことが大切なのではないでしょうか。

山形村であり続けるために、住みよい村づくり、自立の道を歩んで欲しいと思います。横出ヶ崎から北アルプスを背景に眺める山形村が大好きです。



ビジョンを持つて

村づくりを

平林恵美子

(小坂)

かじ取りを見誤ることの無いよう、責任と信念を持ってあたって欲しいと願います。そして村民である私たちは、人任せにしないで、一人ひとりが自分にできる範囲内での健康管理や、地域社会の中で絆を大切に、責任と義務を果たしていくことが大切かと思っています。山形ならではのモノや人を大切に一人ひとりが生き甲斐を持ち、ささやかな幸せを感じ取れるような明るく元気で自立した村づくりを期待します。



議会日誌

10月

7日 総務産業常任委員会

11日 山の子保育園参観
22日 定例全員協議会、議会運営委員会、区三役と議会議員研修会および懇談会

29日

31日 福祉文教常任委員会視察(岐阜市立岐阜小学校他)

11月

5日 福祉文教常任委員会

9日 道祖神と新そば祭り

18日

19日 総務産業常任委員会視察(阿南町)(忍野村)

21日 鉢盛中学校組合議会

12月

25日 第2回議会臨時会
道祖神と新そば祭り反省会

1日 議会運営委員会

2日 農業委員会、JA、議会懇談会

5日 商工会との懇談会
10日 第4回議会定例会開会

11日 一般質問

15日 総務産業常任委員会
16日 福祉文教常任委員会

19日 議会定例会最終日

次回の定例会での一般質問には、多くの皆様の傍聴をお待ちしております。